＜今月の表紙＞

心ワクワクものづくり少年少女発明クラブ開講

４月25日、水沢南地区センターで市少年少女発明クラブ（佐藤剛会長）の活動「紙パック工作」が開かれました。参加児童の能力に応じて基礎と応用の２コースに分かれて開催され、基礎コースには会員14名と保護者らが参加。子どもたちは、保護者や指導員の協力をもらいながら牛乳パックなどを組み合わせ、けん玉とこまを完成させました。

Public Relations Magazine Oshu City
2021.5　Vol.183
広報おうしゅう
令和３年５月号

CONTENTS

2　キラリ輝く奥州人
3　思いをカタチに　地域づくりの輪
4　新型コロナウイルス感染症関係の情報
6　地域福祉計画を策定
7　地域の身近な相談相手「民生委員・児童委員」を紹介します
産後ケア事業のお知らせ～出産後のお母さんを応援します～
8　春の「叙勲・褒章」「危険業務従事者叙勲」
9　各種検診が始まります
５月31日は世界禁煙デーです　この機会に禁煙しませんか
10　街ｄｉａｒｙ
12　ＩＬＣ希望のひかり
13　地域おこし協力隊藤野浩太さん退任
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
14　もっと安心　ずっとおうしゅう
はい、こちら総合相談室
15　子そだて広場
16　インフォメーション
20　奥州遺産

キラリ輝く奥州人 91

及川　勇治さん（44歳）

＝江刺稲瀬＝

伝統ある品をお客さまのもとへ

「作品には作り手の個性が大きく影響する」と語る勇治さん。引き出しにかんなをかける姿は真剣そのものだ

２００年以上の歴史を誇る岩谷堂箪笥（たんす）。伝統工芸品の作り手として、作品に魂を込めるのが及川勇治さんだ。

中学卒業後、県立盛岡高等技術専門校に進学し、木工を学んだ。その中でも、実技が楽しかったと振り返る勇治さん。卒業時には、授業の一環で家具を作り一般向けに販売。「自分がつくったものを買ってもらい、生産する喜びを知った」と当時を思い起こす。

その後、地元の㈲岩谷堂家具センターに当時最年少で就職。学校で学んだ知識を生かし、仕事に精を出した。一度は一線を退くが、結婚を機に復職し、現在も最前線で作品を手掛けている。

仕事をする中で、自分の強みはこだわりと語る勇治さん。「手に触れる場所は滑らかに。全体像の印象に直結する」と細部まで気を配る。

昨年度、難関といわれる伝統工芸士技能試験に合格。岩谷堂箪笥としては10年ぶりの快挙を果たした。「伝統を継承し、これからもより良い作品を届けたい」と語る勇治さんの作品に対する情熱は尽きない。

おいかわ・ゆうじ
◎昭和52年、江刺生まれ。岩谷堂箪笥木部加工伝統工芸士。㈲岩谷堂家具センター勤務。趣味は息子と一緒に遊ぶこと。妻と小学生の息子の３人家族。

思いをカタチに 地域づくりの輪

奥州カヌー愛好会

団体の活動を私がサポートします。

奥州市民活動支援コーディネーターの鈴木まゆ子さんが、市内の市民公益活動団体を紹介します。

■問い合わせ
本庁地域づくり推進課　市民活動係
（江刺総合支所・☎34-1618）

奥州カヌー愛好会は、カヌー体験などを通して胆沢ダムや胆沢川の自然の魅力を発信しながら、カヌーの楽しさをより多くの人に知ってもらうため、さまざまなイベントに取り組んでいる団体です。

同会の結成のきっかけは、平成28年に、胆沢ダム直下の胆沢川で行われた「希望郷いわて国体カヌー競技」でした。当時、市では、市民にもカヌー競技に関わってほしいとの思いから、カヌー審判員の講習会を開催していました。そこで審判員資格を取得した人や、すでに運営ボランティアとして関わってきた水沢カヌークラブの会員が中心となり、現会長の石川善一（よしいち）さんらの呼び掛けで団体を設立。活動がスタートしました。

カヌーを身近なものに

主な活動は、カヌーやスタンドアップパドルボード（通称ＳＵＰ（サップ））などの体験会のほか、みちのくひめかゆカップの運営に携わっています。体験会は、市民だけでなく、市に帰省した人でも気軽に参加できるよう、ゴールデンウィークやお盆の時期に合わせて行っています。会場は、小さい子どもや初心者でも安心して参加できるように、カヌー競技場に隣接する水面が穏やかな馬留池（うまどめいけ）や、湖面から絶景を楽しめる奥州湖で行っています。周辺の豊かな自然を満喫しながら、仲間や家族で参加する人も多く、参加者は年々増加しているそうです。また、みちのくひめかゆカップは「岩手県民体育大会カヌー競技」と併催するもので、県カヌー協会と連携し開催しています。選手を応援するための応援グッズの貸し出しや、競技の合間を活用した昼花火、よさこい演舞などを企画して、観客を楽しませながら会場内の一体感を作り上げようと工夫を凝らしています。

このほか、国内で開催するカヌーの各種大会や市が行うカヌー教室などを主催団体と連携してサポートしています。さらには、全国各地から訪れる選手や観客に配慮し、仮設トイレやあずまやの設置をしたり、競技場周辺の草刈りをしたりするなど、環境整備や環境美化にも気を配りながら会員一丸となって取り組んでいます。

※これらの事業は、毎年、市民提案型協働支援事業補助金を活用して行っています

昨年、馬留池で開催されたカヌー教室の様子

奥州市から世界へ

３年４月には、これまでの胆沢でのカヌー体験会や、市主催のカヌー教室を通じて参加した子どもたちを中心に、同会の傘下団体として「奥州ジュニアカヌークラブ」が設立されました。今後は、水量や流れの速さなどから国内でも高い評価を受けている奥州いさわカヌー競技場をさらにアピールしながら、ジュニアクラブの育成にも携わっていきます。

会長の石川善一さんは「奥州市から将来、オリンピックに出場する選手が出ることを夢に頑張っていきたい」と思いをはせます。子どもたちが世界へ羽ばたいていくことを夢見て、同会は今後も活動に力を注ぎます。

４月に設立した
「奥州ジュニアカヌークラブ」の皆さん